

航空法では、航空機は整備を行った後、国家資格を持つ航空整備士に確認を受けないと運航してはならないと定められている。航空整備士資格受験には一定以上の整備経歴が求められるため、通常は航空業界に在籍していないと受験機会は得られない。だが、本校では在学中に整備経験が得られるため、小型の飛行機やヘリコプターの確認を行う二等航空整備士資格が取得できる。

学生は入学後、航空機が飛ぶ原理から機体構造、整備されるシステム、使われているボルトやナットをはじめとした部品や材料、整備用工具の知識などを一から学ぶため、全く航空機の知識がなかった学生も資格を取って卒業する。



航空整備士の資格試験

中日本航空専門学校就職
キャリア支援センター長 市原敏朗

高校までの勉強は、それが将来の自分にどのようにつながることができるのかつかみづらいこともあり、勉強にいまひとつ身が入らない学生さんもいるだろう。私もそうであった。しかし、航空整備科は、教育内容の全てが二等航空整備士の資格取得という最終目標に向けた内容であり、ゴールが分かりやすい。

高校まで勉強で力を発揮できなかった学生が、入学後は優秀な成績を収めることもある。在学3年間で航空整備資格者に育成するため、勉強量も多く、今までこんなに勉強したことはなかったと語る学生もいるが、ハードルが高いだけに、資格試験に合格した時の達成感は何物にも代えがたい感動がある。

卒業後、すぐ資格者として第一線で活躍できるほど航空機整備の世界は甘くはないが、入社後さらに整備経験を積み、本当の意味で資格を生かせる整備士になれるように頑張っている。